Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2016年11月）

発表日：2017年１月11日（水）

～上昇傾向が明確化～

第一生命経済研究所　　経済調査部
担当　主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

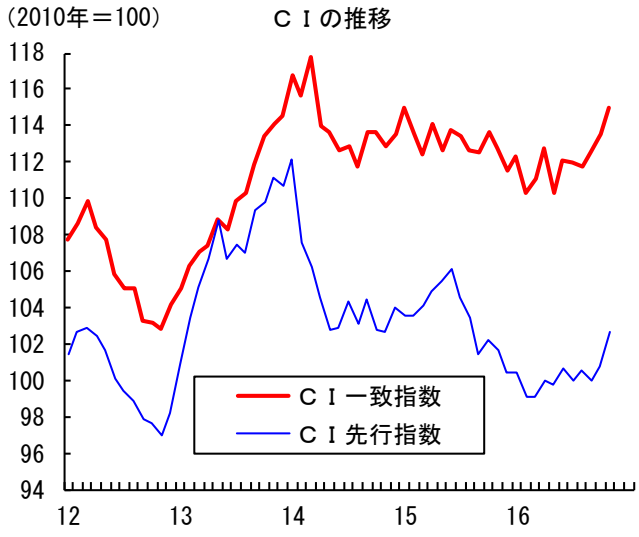
○ＣＩ一致指数、先行指数とも明確な改善

内閣府から公表された 2016 年 11 月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差＋1.6 ポイントとなった。９月の＋0.8 ポイント、10 月の＋1.0 ポイントに続いて３ヶ月連続の上昇であり、上昇幅も大きい。３ヶ月移動平均前月差の値も＋1.13 と４ヶ月連続のプラスで、プラス幅も 10 月の＋0.50 から一段と高まっている。ＣＩ一致指数が上昇傾向を明確化させていることが確認できる結果である。これは、10-12 月期の鉱工業生産が増産ペースを加速させていることとも整合的だ。なお、11 月の内訳では、卸売業販売額や鉱工業生産指数、生産財出荷指数などがが好調で、ＣＩの押し上げ要因になっている。

11 月のＣＩ先行指数も前月差＋1.9 ポイントと上昇した。２ヶ月連続の上昇であり、上昇幅も大きい。先行ＣＩは昨年夏以降、大幅に低下していたが、16 年２月頃下げ止まり、足元では持ち直しに転じている。11 月の内訳では、在庫調整の進展を反映して生産財在庫率指数や最終需要財在庫率指数が大幅なプラス寄与になったほか、商品市況の上昇を受けて日経商品指数の押し上げも大きくなった。ＣＩ一致指数、先行指数とも持ち直しの動きが明確になっていることは、景気にとって明るい材料だ。内外ともに製造業部門での回復が顕著なことや、経済対策効果の顕在化が期待されることもあり、景気は当面好調に推移する可能性が高いだろう。

○ 基調判断は「改善」維持

内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は「改善」で据え置かれた。2015 年５月以降、17 ヶ月にわたって「足踏み」の判断が続いていたが、10 月に「改善」へと上方修正された。11 月もこの「改善」判断が維持されている。なお、「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」、「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」である。長らく続いた踊り場から脱却し、景気が回復基調に転じていることが、ＣＩ一致指数からも確認されている。



（出所）内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。